今日の力

2021年12月20日～12月26日

翻訳　　藤岡　伸子

編集　　野口恵美子

この冊子の聖句は，新改訳聖書第三版を使用しています。

御茶の水キリストの教会

１２月２０日(月)

慰　　め

聖書朗読　　エズラ　４：１～４

神を愛する人々、すなわち、神のご計画に従って召された人々のためには、神がすべてのことを働かせて益としてくださることを、私たちは知っています。

ローマ　８：２８

バビロンからエルサレムに戻ったエズラと民たちにとって、エルサレムの町と神殿を再建すること自体既に十分骨の折れるものでしたが、周囲の人々から気力を失わせるようなことをされ、状況はさらに困難なものとなりました。皆さんも既にギリギリの状況であるのにさらに追い打ちを掛けて気持ちをそがれるような経験をしたことがありませんか。

幸いなことに、エズラたちは、そのような状況にあっても対抗する手段がありました。それは慰めです。この慰めは神様ご自身と神様に従う者たちから与えられものです。使徒４章３６節のバルナバ（慰めの子）について覚えていますか。彼は主を信じて「心と思いを一つ」にした人々の群れを助け、福音宣教を続けられるようにと、自分の畑を売りその代金を使徒たちに差し出しました。

慰めの根源は神様です。神様は、私たちを造られ、私たちの心の奥にある思い、恐れ、そして希望などあらゆるものをご存知です（詩篇１３９：１～１０）。ですから、落胆することがあっても、神様は私たちと共にいてくださり、私たちの力と励ましの大いなる源となってくださるのです。

励ましは魂の酸素のようなものである。

-George M. Adams-

讃美歌　　５２５

祈　り　　親愛なる主よ。あなたのみことばの力によって、あなたがいつも共にいてくださることを思い出させてください。私たちに誤ったことをさせず、正しく善なることが出来るよう励ましてください。兄弟姉妹を信じることが出来るようにしてください。

イエス様のお名前によって祈ります。アーメン。

フィリップ・エイマン

サウスカロライナ州　イルモ

１２月２１日(火)

不　正　を　改　め　る

聖書朗読　　ネヘミヤ　５：１～１３

私は彼らの不平と、これらのことばを聞いて、非常に怒った。

ネヘミヤ　５：６

聖書に記された英雄といった場合、ネヘミヤを挙げることは稀でしょう。彼は巨人を打ち負かしたり、戦に勝利したこともありませんし、王でも祭司でもありません。ごく普通の人であり、ただアッシリア王の献酌官であったとしか記されていません。

けれども神様は、仲間の民とイスラエルの子どもたちに対し熱い思いを注ぐネヘミヤを選ばれました。ネヘミヤは偉大なエルサレムの町が破壊されたことを嘆き、 勇気を出して心の内にある苦悩を王に打ち明けます。これに対し王は、物事を収めて来るようにと言ってネヘミヤをイスラエルへ送り出します。王は、このエルサレムの崩壊という事態が異国の人々から受ける傷よりもずっと深いものであることを悟ったのです。

彼は、宗教指導者たちが誤った行いをしていることを知っていました。彼らはトーラの教え（モーセ五書*）に反し、仲間であるイスラエルの人々にお金を貸す際、法外な利子を課していたのです。ネヘミヤはこの不正に立ち向かい、その不公正な行いにより抑圧されている人々を助け、そのような悪事を正そうとしました。

私たちも不正に気付いたら、ネヘミヤの主にある信仰に倣って、不正を改めるよう取り組むことが出来ますように。＊創世記、出エジプト記、レビ記、民数記、申命記の書。

讃美歌　　３８２

祈　り　　親愛なる主よ。私たちが誰かを傷つけてしまったら、どうかネヘミヤの信仰をもって、それを正すことが出来るようにしてください。

イエス様のお名前によって。アーメン。

ロバート・P・ミュレン

テキサス州　ノースリッチランドヒルズ

１２月２２日(水)

エステルの備え

聖書朗読　　エステル　２：１～１８

おとめたちは、婦人の規則に従って、十二か月の期間が終わって後、ひとりずつ順番にアハシュエロス王のところに入って行くことになっていた。

エステル　２：１２

このお話はエステルにとって恐ろしい経験と思われる出来事から始まります。王妃ワシュティが宴会に出よという王の命令を拒んだために、王は家来たちに命じて、その代わりとなる女性たちを集めさせることとなりました。その時エステルに選択の余地はなく、エステルとともに多くのおとめたちが集められました。そのうち選ばれた者は僅かでした。

王の前に出るとき、彼女たちは必ず相応しい準備期間がありました。その準備は１年がかりの美容エステのようなものでした。その美容のプロセスには様々なものがあり、香料や没薬の油など、おそらく高価で作るのも難しいと思われるものも用いられました。

私たちの王、主なるイエス・キリストは私たちを呼んでくださり、その犠牲によって私たちを整えてくださいます。私たちが主のもとへ行くとき、その血潮によって私たちの罪は清められ、主のおられる所へ堂々と歩んで行くことができるのです。

讃美歌　　２５９

祈　り　　親愛なる主よ。私たちの永遠のいのちの為に、あなた様が大きな犠牲を払って私たちを整えてくださったことを心から感謝します。あなた様のもとへ私たちが行くための備えをなさるため、自ら犠牲を払ってくださった事を感謝します。

イエス様のお名前によって。アーメン。

スコット・ゲイジ

アーカンソー州　ファイエットビル

１２月２３日(木)

執　着　が　破　滅　に

聖書朗読　　エステル　５：９～１４

わがたましいよ。主をほめたたえよ。主の良くしてくださったことを何一つ忘れるな。　　詩篇　１０３：２

ハマンは多くの事を成し遂げ昇進して行きました。けれども彼は、王の門に座っているユダヤ人モルデカイが気に入らず、モルデカイを見る度に、そうした輝かしい経歴などすべてがあって無きに等しいものと思え、満足することが出来ませんでした。

ハマンは次のような人物として描けるのではないでしょうか。１枚の紙をもってテーブルに着いたとします。その紙には二つの欄があり、一つ目は良い事の欄、もう一つは悪い事の欄。一つ目の欄には何も書かれていませんが、二つ目の欄にはたった一つのことが書かれています。それは、「モルデカイという男がハマンの望むように彼を崇拝しない」というものです。このこと一点がハマンの怒りの全てであり、彼はその事にばかり目を向けています。彼は始終そのことを考え、繰り返し語り、事細かに話すのです。モルデカイのことが彼の頭から離れず、心は自分の覚える苦しみでいっぱいになります。その結果、ハマンは最悪の行動を起こすこととなるのです。

時に私たちは、自分を良く思わない人や出来事に執着し過ぎて、自らの人生を深刻な危機に晒（さら）すことがあります。ハマンの姿勢は、上述の二つ目の欄に書かれた「悪い事」に捉われ過ぎた時の私たちの心と思いを映し出す典型のようなものではないでしょうか。すべて「主の良くしてくださったこと」、今してくださっていること、そして今後もしてくださることを忘れると、私たちは気持ちが落ち込み、悪意的な行動パターンを取ってしまうかもしれません。

今日そして日々時間を取って、神様が与えてくださるすべての恵みと、私たちにとって益となる事を振り返り、喜びに満たされましょう。

讃美歌　　５３４

祈　り　　お父様、どうか私の心を澄ませ、あなた様から与えられるすべて良いものから得られる喜びで日々満たしてください。

イエス様のお名前によって。アーメン。

クリス・アルトロック
コネチカット州　スタンフォード

１２月２４日(金)

感　謝　祭

聖書朗読　　エステル　９：１８～３２

すべての事について、感謝しなさい。これがキリスト・イエスにあって神があなたがたに望んでおられることです。

Ｉテサロニケ　５：１８

私たちのユースグループでは、毎年感謝祭の頃に、七面鳥や缶詰を集めて困っている家族に届ける活動をしています。それは、神様の溢れる恵みを分かち合い、喜びが他者にもたらされるのを覚えて共に働く喜びの時なのです。

エステルの時代、プリムの日は祝宴と喜びの日であり、互いに御馳走を贈り貧しい者に食事を施す時とされていました。この日ユダヤ人達は集まって、神様が彼らの中心におられて彼らの為に成してくださったことを祝いました。これが、彼らに勝利をもたらしてくださった神様へ毎年感謝を捧げるものとなりました。

感謝祭では、家族が集まり、皆わくわくしておしゃべりをし、食事を分かち合います。そして部屋中が笑いで満たされます。食事の前には神様の与えてくださった溢れる祝福に感謝の祈りを捧げます。

私たちは神様の成してくださった良いことについて神様に感謝を捧げるために、祝日や決まった日を待つ必要はありません。日々の祈りを通して、恵みを受け、勝利を得させていただけるのです。そして、これまでに神様が成してくださったあらゆる事に気付かせていただけるのです。応えられた祈りも、未来の希望も、キリストにあって与えられることが確実に約束された恵みです。

プリムの日はエステルの時代に始まった祝いの日です。今日、神様の子どもである私たちも神様の良い御業を称えましょう。

讃美歌　　２９４

祈　り　　天のお父様。あなた様がお与えになるすべての恵みを感謝します。とりわけイエス様をお与えくださったことを感謝します。

イエス様のお名前によって。アーメン。

キャロル・ローデス
コロラド州　プエブロ

１２月２５日(土)

希 望 の 友

聖書朗読　　ヨブ　７：１～６

神が私を殺しても、私は神を待ち望み…。

ヨブ　１３：１５

私の友人ジュリーは、癌のため手術と化学療法を繰り返し受けていますが、化学療法の後数日は酷く辛い状態となるため治療を諦めたいと言っています。彼女はヨブの言う「私にはむなしい月々が割り当てられ、苦しみの夜が定められている。」（３節）と感じているようです。何と絶望的なことでしょう。

けれども、どれほどの窮状にあっても私たちには希望があります。ヘブル書３章６節には、「しかし、キリストは御子として神の家を忠実に治められるのです。もし私たちが、確信と希望による誇りとを終わりまでしっかりと持ち続けるならば、私たちが神の家なのです。」とあります。ジュリーはこのことを知っています。

人生に希望がないと思われるとき、私たちはどうしたら希望を持ち続けることが出来るでしょうか。慰めてくれる友人に希望を見出そうとするでしょうし、私たちも落ち込んだ友人がいれば慰めたいと思うでしょう。

私たちは様々なやり方で希望を示すことができます。電話を掛けたり、メールを送ったり、SMS でメッセージを送ったり、手書きのメッセージを送ることも出来るでしょう。人は精神的に持ちこたえようとするとき、愛や人との触れ合いを求めるものだと言われています。どのような状況におかれても、私たちは互いに触れ合いイエス様の愛を分かち合うことを通して、自分と他者の希望を持ち続けることができるのです。

讃美歌　　３９６

祈　り　　全能なる天のお父様。どうか私たちに希望を持たせてください。また、他の人が希望を持てるよう励ましを与えることができるようにしてください。友が励ましを必要としている時、それに気づき、彼らに希望を与える知恵を私たちにお与えください。

イエス様の聖なるお名前によって祈ります。アーメン。

ラニタ・ブラッドリー・ボイド
ケンタッキー州　ニューポート

１２月２６日(日)

口に手を当てる

聖書朗読　　ヨブ　４０：１～９

ヨブは主に答えて言った。ああ、私はつまらない者です。あなたに何と口答えできましょう。私はただ手を口に当てるばかりです。

ヨブ　４０：３～４

古いことわざを思い出しました。「失言するくらいなら、黙っていた方がずっと良い。」というものです。ヨブは多くのことを語りますが、物事は彼にとって大変苦しい状況へと向かいます。友人たちは彼の助けとなるよりも、彼を苛立たせました。ヨブは多くのことを語りましたが、やがて自らが多くを語り過ぎたことに気付かされます。彼は自分が悟りえないことを告げていたことに（４２：３）ようやく気付くのです。

私たちもこのような状況に置かれた自分を思い浮かべることができるのではないでしょうか。何かが起こり、その理由は分からないけれども、それにもかかわらず、勝手な憶測をしてしまうといった状況です。私たちの憶測は他者についての思い込みであることがあり、それがトラブルの引き金となります。私たちが友人たちに対して抱く憶測は危険なものですが、神様についての勝手な憶測はさらに良くありません。主はヨブに多くを説明されませんでしたが、ただヨブが自らの無知を悟り、自分が何でも分かっているつもりで語ることをやめるよう求めておられました。主は私たちが目を向け信頼することを求めておられます。

神様のなさるやり方について勝手な憶測をしてしまいそうなときは口に手をあて、隠されていることは、私たちの神、主のものである（申命２９：２９）ということを忘れずにいましょう。深い理解を祈り求め、勝手な憶測をするのではなく心を主に向けて信頼しましょう。

讃美歌　　３０５

祈　り　　主よ。どうか私たちが愚かにも多くを語ってしまうことをお赦しください。また、自らの理解を超えた事柄について憶測を立てることのないようにしてください。

イエス様の聖なるお名前によって祈ります。アーメン。

サイヤ・サリスバリー
オハイオ州　トレド